

溝のロキリスト教会 ウィンディ・ニュース

第460号 (2026年1月1日発行)

Windy News

新年1月号

標語：主の強い愛の流れに飛び込み、主の祝福に
満ち溢れた人となろう。

聖句「あなたたちの神、主が年の初めから年の終
わりに至るまで、絶えず目を注いでおられる。」
(申命記 11章 12節)



12/21 クリスマス礼拝



12/14 クリスマスキャロル



12/21 ハンドベルコンサート

2025年10月25日 壮年部の上野めぐり「国立科学博物館」



2025年10月26日 Steve Sacks 50th Live



2025年11月16日



芋煮会

2025年11月16日 金井 幸ちゃん献児式



牧師のコラム

二〇二六年元旦礼拝

「年の初めから終わりまで」

仁井田義政 牧師

今年の溝のロキリスト教会の御言

「そこは、あなたの神、主が目を留めておられる地であり、年の初めから年の終わりまで、あなたの神、主の目が絶えずその上にある。」

(共同訳 申命記十一章十二節)

皆さん、あけましておめでとございます。溝のロキリスト教会は、申命記の御言で二〇二六年が始まりました。申命記は、イスラエルがエジプトの奴隷状態から解放されて、神様の約束の地に入る前に、モーセによって語られた説教集です。その内容は、新しい地に入っていたなら、どのように生活して神様の祝福を受け、幸せな生活をするかの教えです。それは、そのまま私達が新しい年を迎えて、どのようにして祝福された生活をするかの教えにもなります。今日の御言の前後関係から、新年二〇二六年が、

皆さんにとって素晴らしい年となりますよう、この御言を新年礼拝のメッセージとしたいと思います。

★まず新しい年を祝福に満ちた年とするための条件は、八ヶ九節にあるように、神様の命令を守ることです。神様の

命令と言いますと、堅苦しく感じる人がいるかもしれませんが。しかし、それは神様の優しさなのです。新しい機械等を購入して、その取扱い説明書がないと困ります。それと同じように、神様は私達に新しい年に迷い、無駄な日や時間を使うことのないように、説明書を下さったのです。それは、イスラエルの民達が、エジプトからイスラエルにひと月もあれば来られるのに、四十年もかかってしまったからです。さらに悲劇的なのは、エジプトを出る時に二十歳以上だった人々は、四十年の間に全て荒野で死んでしまいました。それこそ無駄死をしたのです。

★さて申命記は、エジプトの地と新しい約束の地の違いについて、記しています。エジプトの地には大きなナイル川がありました。その利益を受けるためには、自分の力で川から水をくみ上げて動

植物に与えなければなりません。しかし新しい地イスラエルには、山があり谷があり、そこは雲が湧き出て雨が天から降ってくる地なのでした。人力によつてではなく、前の雨と後の雨が地を潤し、農作物を育てたのです。前の雨は、十月～十一月頃にあり、その時が種蒔きの季節となりました。後の雨は、三月～四月頃で、それは収穫前の大切な雨なのです。その二度の雨季は、今もなお変わることがありません。

★そのように、天から雨の降る新しい地で、神様からの祝福を受ける方法は「主を愛すること」ですと二十二節に記されています。そうする時、主が新しい年に於いて、あなたを祝福してください。しかし無視すれば、新しい地での生活も「呪われたもの」になってしまうと二十六節に記されています。

★神様はイスラエルの民が、新しい約束の地に入っていくにあたり、イスラエルのために「年の初めから、年の終わりまで、絶えずその上に目をとめておられる地である」(十二節)と言っておられます。イスラエルの民は、エジプトから約束の地まで一ヶ月もあれば十分に行けた

距離なのに、不信仰のために四十年も荒野をさまよいつつ、苦しい生活をする事になってしまいました。モーセは、イスラエルの民が約束の地で不信仰のゆえに無駄死にすることがないように、この申命記の一大説教をしたのです。

★私達は、新しい年を「強く主を愛する年」と致しましょう。そして強い信仰の告白をもって、神様からの祝福に満ちた新しい年を受け取り、二〇二六年を希望に満ちて出発いたしましょう。



■ 賛美集会のお証

9月に行われた賛美集会で私は初めての賛美のリードをしました。初めは、ハンドサインや繰り返しなどの歌詞を言うタイミングなど全く分からなかったけれど、練習を重ねていくうちにできるようになっていき、本番では本当に心からの賛美を神様に捧げることができ、司会(?) それも初めてだったけれど前に立つと自然に言葉が口から出ていき、これは聖霊様が働いてくださったのだと感じました。この賛美集会の奉仕は私が霊的にとっても成長できたなど感じました。

話は変わりますが、私たちは喜びや感謝を感じた時に賛美を捧げることが多いです。悲しい時や思い煩いを抱えている時は、賛美する事が出来ないことが多いですね。しかし聖書にはこう書かれています。

「キリストの言葉を、あなたがたのうちに豊かに宿らせなさい。そして、知恵をつくらせて互に教えまた訓戒し、詩とさんびと霊の歌とによって、感謝して心から神をほめたたえなさい。」

コロサイ人への手紙 3:16

私達はどんな時にでも、それぞれが置かれた場所で苦しいときや悲しい時にこそ！賛美や祈りを捧げ、そして神様を伝えていくことが何よりも大切なのだ。私はこの賛美集会を通して学ぶことができました。

素晴らしい時を神様感謝します！

(記：美祈姉)



溝の口教会の 50 周年記念 LIVE

Steve Sacks 50th Anniversary Concert



溝の口教会の 50 周年記念 LIVE が、Steve Sacks さんのキャリア 50 周年とのジョイントとなりました。教会の 40 周年のときも記念コンサートを開いていただいた Steve さんも、「面白いね!」と、気さくにこのネーミングに興味を示してくださった。この日のミュージシャンの方々もメジャーシーンで活躍しているほどの一流プレイヤーが揃い、何とも贅沢な演奏でした。大勢の方が集い、Steve Sacks さんの演奏とお証、それから歌!までを堪能できたコンサートでした。お互いの歩みを主が守られて続いていることに改めて感謝します。

「60 周年でもぜひ。」と聞くと、笑っておられました。



11/24 ウィンディキッズ Day Camp



今年のデイキャンプは、溝の口教会を使って、たくさんのゲームをみんなで楽しんだり、グループ分けしてゲーム勝負をして賞品をもらったり、礼拝したり、ワーシップ賛美したり、おいしいランチを一緒に食べたり、きれいなキーホルダー工作をして楽しんだり、おいしいお菓子・スイーツを食べたり、思いっきり笑ったり、充実の一日を過ごせました。イエス様も楽しい私たちをご覧になって笑ってくださった(と思う。)

11/16 芋煮会&バーベキュー



12/21 クリスマス礼拝



12/21 ハンドベルコンサート



2025年クリスマス

■クリスマスキャロル

十二月十四日、例年通り溝の口のキラリデツキにてハンドベルとゴスペル、応援に駆けつけて下さった多くの皆さんと仁井田牧師そして教会員によってクリスマスキャロルが行われました。この日は雨の予報となっていました、そこは迷いなく主に求める私達、何日も前から祈りその時を待ちます。神様は祝福下さり、すっかり雨が上がったデツキに我々を集めてくださいました。

やがてキャロルが始まると、道行く人々が足を止めて聞き入って下さいます。ハンドベルの美しい音色、ゴスペルチームの皆さんによるクリスマスソング。観衆の皆さんはこの時、確かにクリスマスが町にやって来たと思われ、確かにクリスマスが町にやって来たと思われ、足を止めて聞き入って下さった方々は、お家に帰りご家族の間で、または友人との会話で話題にされ、小さなお子さんはその胸に温かな思い出となってクリスマスの喜びを感じて下さったことと思います。

夏から始まった準備は羽が生えたように美しい音、声となって街に人々の心に届き豊かに用いられました。(記…西山兄)

■クリスマスキャンドル礼拝

2025年雨のクリスマススイブ。

「雪ならロマンチックなのにね」
「寒いし行くのも大変じゃない？」
「そうねえ〜」

音響の手伝いをする娘とこんな会話をしながら教会に向かいました。

健一兄と勝彦兄の息の合った聖なる鐘でキャンドル礼拝スタート。

♪ゴスペル部の賛美

聖歌 125 ふけゆくのはらの

イエス様のお誕生を祝う賛美は、暗い気持ちやつらい気分の中で足元しか見ていない自分から、希望の光、イエス様を見上げようと思う、元気を与えてくれますね。

勝彦兄の司会で礼拝は進んでいきます。

♪讚美歌 109 きよしこの夜

♪聖歌 128 たがいによるこび

集った方々と共にイエス様を祝う賛美も素晴らしいですね。

牧師メッセージ(ルカ2…8〜20)

『羊飼いのクリスマス』

救い主がお生まれになったと最初

に知らされたのは、当時の社会で最も底辺にいた羊飼いたちでした。

羊飼いはすぐに探し始め、御使いの言った通りのしるしの救い主を礼拝し、神を賛美しながら帰っていきましました。馬小屋の中で飼う葉桶に布にくるまった赤ん坊。これが御使いの言ったしるしです。神様はどんな人にも救いが受け取れるように、当時の底辺と思われる人々さえ、

そのようにはならない状況をしるしとしました。あなたも救い主イエス様を信じて、クリスマスチャンとなりましょう！

♪ゴスペル部の賛美

聖歌 127 ノエルをばはじめに

この日の選曲はゴスペル部で独自に行われ、9月には決まっています。しかし何とということでしょう。こんなにメッセージと一貫性があるなんて。

♪聖歌 138 君なるイエスは

代表の祈り 桜井亜紀子姉

(8ページへ続く)

(3 ページの続き)
最後に司会者から茶菓の案内があつて集会は閉じられました。

集会後のティータイムも和やかで楽しいひとときとなりました。初めて来られた方との会話は新鮮で、また、普段礼拝時間が違うため会うことの少なかった方々とお話ができたり、はしゃぐ子ども達の様子に笑ったり。こんな時間も大切だと感じました。

(記…神田みどり姉)



■クリスマス記念礼拝 クリスマスは 本物の光と権利が与えられた日

今年のクリスマス記念礼拝では母娘でゴスペルに参加できて感謝でした。瑠佳はこのところ、進級制作のために每晚大学に居残ってヘトヘトみたいでしたが、久しぶりに来た教会で、キラキラの祭壇に目を輝かせていました。

4つのキャンドルが全て灯されたこの日、仁井田牧師のメッセージはヨハネ1章の九く十三節。キリストの誕生を「まことの光の到来」と呼ぶくだりです。戒律に縛られ希望も癒やしもない闇のような世界に、本物の光(the true light)が輝いた夜、救い主を待ちわびてきた人々はどんなにか心を躍らせたことでしょう。今いる世界の闇が深いほど人は光に魅了されます。でもそこで大切なのは、それが本物の光なのか、ニセモノの光なのか見極めること。

牧師のメッセージを聞きながらふと記憶がよみがえりました。今から二十年以上前に3年ほど、不妊治療のクリニックに通



っていた頃のこと。警察署の先にあるクリニックを出て渋谷駅に向かって歩いていると、人混みの中でいつも声をかけられるのです。「お顔にとてもすてきな開花相が出ていますよ」と。声をかけてくるのは違う人でも毎回同じセリフ。占いかカルトだと思われるため、立ち止まらずに通り過ぎていました。週に3〜4回通院して毎回声をかけられるので、そのうち二十メートルくらい手前で「今ロックオンされたな」と分かるようになり、いつものセリフで近づいてくる人を早歩きで振り切れるようになりました。

後年、ネットで調べたところ、立ち止まって話を聞くと、「これから人生が上向く転機がやって来る」などと言われて占い師

のところにも連れていかれ最終的には大金を払うことになるようでした。平日の真つ昼間に警察署のほうから思い詰めた表情をして1人で歩いてくる三十代の小柄な女性、というのが勧誘マニユアルのストライクゾーンだったのかも。当時の私は、なかなか子供が授からず落ち込むこともありましたが、神様に全てゆだねようという気持ちのおかげで道に迷わずに済みました。でももしこれが、闇の中でもがいている人だったら、「これから人生が上向き」という甘い言葉に吸い寄せられてしまっただけかもしれません。

ヨハネ1章の続きに、イエス様を信じるだけで「神の子となる権利 (the right to become children of God)」を得られると記されているという牧師のメッセージ。血筋も努力も関係なく、ましてや占い師にお金を払わなくても、イエス様を信じる人全員に愛と癒やしに満ちた人生はやって来ます。(私も双子を授かりました。) 世界の人に光と権利 (light and right) を与えるためにイエス様が来てくださったクリスマス、今年も心からお祝いし感謝します。

(記：田口姉)

■ 献児式の感謝

皆様、この記事を読まれるのはお正月ですね。あけましておめでとうございます。

11月末に行われた金井 幸(かない こう)の献児式では、第二礼拝に集った会堂の方にお祝いをいただいて、静岡から私(綾)の父母も元気に参加することができ、本当に感謝でした。今回は、論の献児式のときの教訓から、お式と、お宮参りの記念撮影は別の機会にしたので、午後に幸が撮影中に疲れて泣き叫び、皆、写真用の笑顔がひきつる…という事態も避けられて、重ねて感謝でした(笑)。思い返そうとすると、8月に幸が生まれ、11月に私が復職して、夫(和夫)が育休に入ってからというもの、家族そろって育児に家事に仕事に(そして上の子の保育園からときどきやってくる風邪や胃腸炎に)もろもろと忙しすぎて、せっかくの献児式も、早や記憶の彼方に…という感があります。子育て中がこうもバタバタだと体験して、10年くらい前を思い出して、先に子どもが生まれた友人たちが、忙しい中で、私たち夫婦の結婚やタンザニア派遣を祝福し応援してくれたことは、本当にありがたいことだったと改めて思いました。

そして、肝心の献児式ですが…覚えていたのが、「二人の子どもでなく、神様の子どもですよ。」という牧師先生のことばです。お式がちょうどアドベントに入る一週前で、礼拝ではマリアが思いがけず妊娠したという聖書箇所からのメッセージでしたので、その言葉が特に印象深く残りました。それに触発されて、お式のあとの一言で、幸の名づけの由来をお話ししましたので、ここに再度載せます。

「幸」という名前は、幸せになってほしいと願ってつけました。第1子の論の誕生のときは、様々な親の期待を載せて名付けたくんですけど…重かったらごめんさい、と今から思っています…汗)、第2子になったら力みも抜けて、親から子へ期待するとしたら、ただ幸せになることだけだと思っただけです。私たち親や世間が考える『幸せ』ではなくて、本人がほんとうに望む幸せを探して、見つけることを応援したいです。私は、神様は私たちが生まれるときに、一人ひとりに命と共にミッション・ご計画をくださり、それが果たされるとき、私たちは幸せを感じるといふ風に思っています。私たちが親はただの不完全な人間



なので、子どもが求める幸せの形、神のご計画が、理解できない・望ましい形でないと感じることもありうると思います。マリアの未婚での妊娠や、貧困の中での出産のように。ですが、その後に新しい世界がひらけたように、私たちも、これがこの子のため神の計画なのだろう、これを通じて思いがけないことがなされるのかもしれないと思えるようになります。…と、ここに書いておけば、子が成長し、いつか親子で意見が対立することがあったときに、私の心でなく、子のための神の計画を祈って求めることに役立つと思いますので(笑)、書かせていただきました。今後とも、私たち家族をよろしく願います。

(記…金井綾姉)

■■■■■ 1月スケジュール ■■■■■

1月 1日 (木) 11:00～元旦礼拝

1月 4日 (日) 11:00～合同礼拝

1月 11日 (日) 第1礼拝、第2礼拝開始

2月 1日 (日) 教会会議

■編集後記

今号は昨年末のイベントと年始のメッセージを合わせた特別号で、写真の多いウインディニュースとなりました。

今回のクリスマスイベントは、現地参加がほとんどできなかったのですが、みなさんの記事を読んで今年も最高に祝福され、素晴らしいときとなったことを実感し、感謝しました。新しい1年も主に期待していきたいと思えます！

(小俣姉)

ウインディチャペル 溝の口キリスト教会
〒213-0033

神奈川県川崎市高津区下作延 7-11-12

TEL・FAX 044-811-3235

E-mail mcc@windychapel.com

ホームページ <http://windychapel.com>

